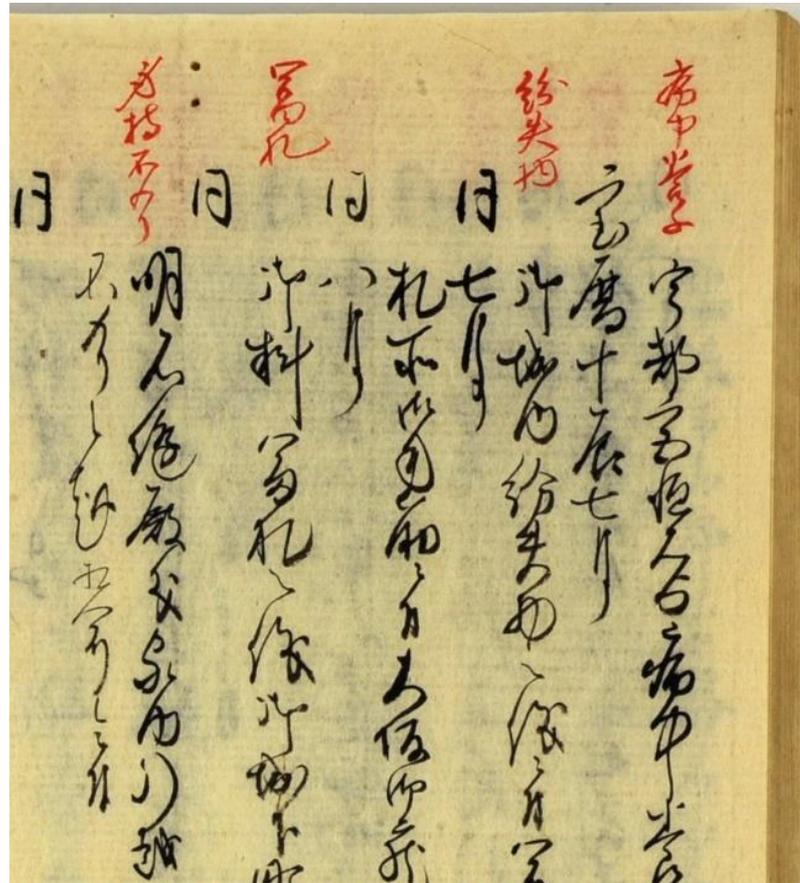


# 第1回 くずし字初級講座



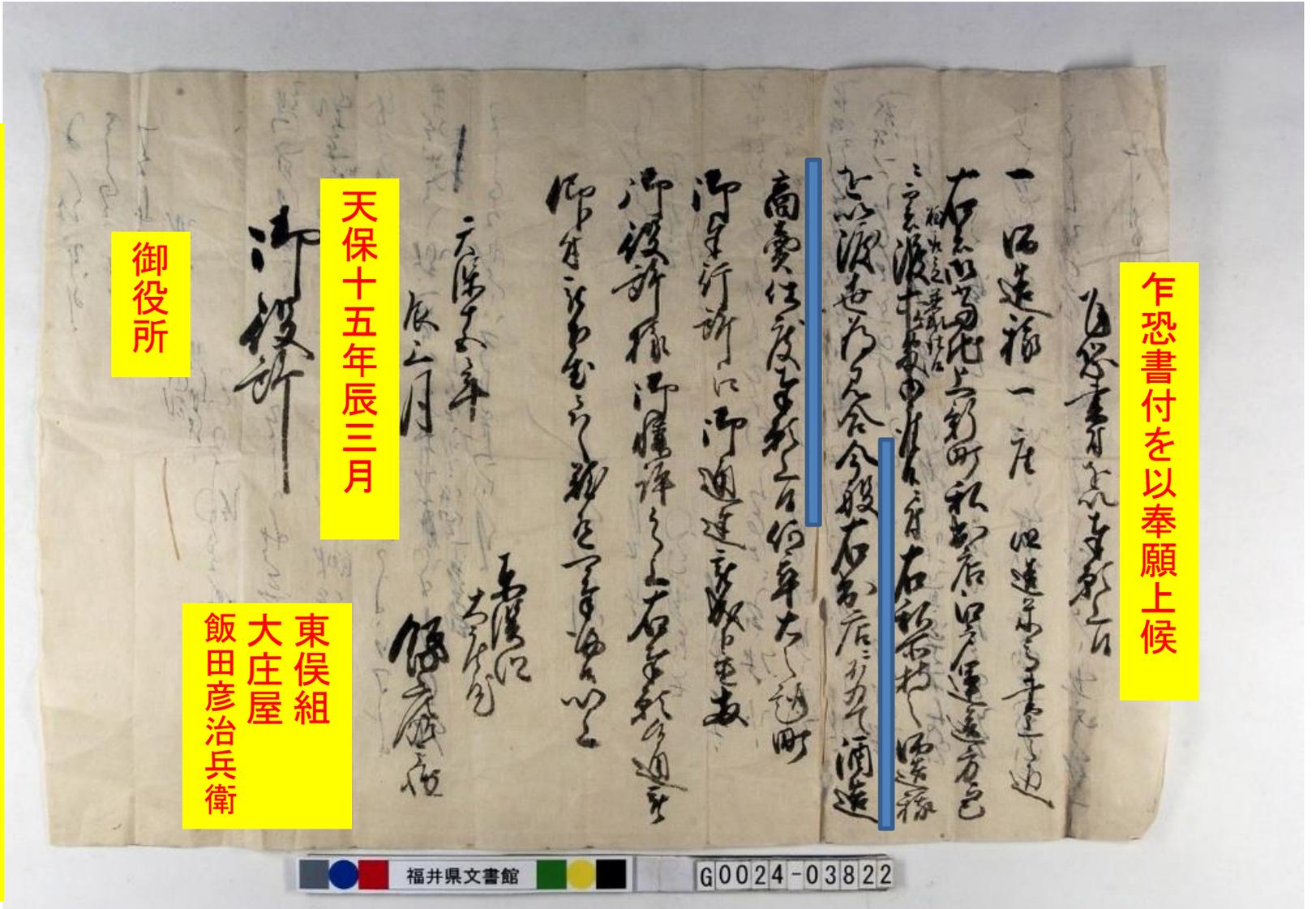
松平文庫「聞繕目録」(A0143-01134、宝暦9年部分)

# はじめに

## 資料の性格をおおまかにおさえましょう

- いつの資料なのか
- 誰が作成したのか（誰に出されたものか）
- どんな資料なのか
- 何が書かれているか
- 記述のパターンはどうなのか

# 古文書の例(一紙文書、「乍恐書付を以奉願上候」)



乍恐書付を以奉願上候

一 口送御一庄 口送御一庄

右 酒造御一庄 口送御一庄 口送御一庄

高 賣 仁 度 及 子 孫 万 年 大 一 送 町

酒 造 御 一 庄 口 送 御 一 庄 口 送 御 一 庄

天保十五年辰三月

酒造御

御役所

東侯組  
大庄屋  
飯田彦治兵衛

作成年月：天保十五年三月  
差出人：東侯村大庄屋飯田彦治兵衛 宛名：御役所  
資料名：乍恐書付を以奉願上候(上新町出店)において酒造商  
売仕度候(一付)

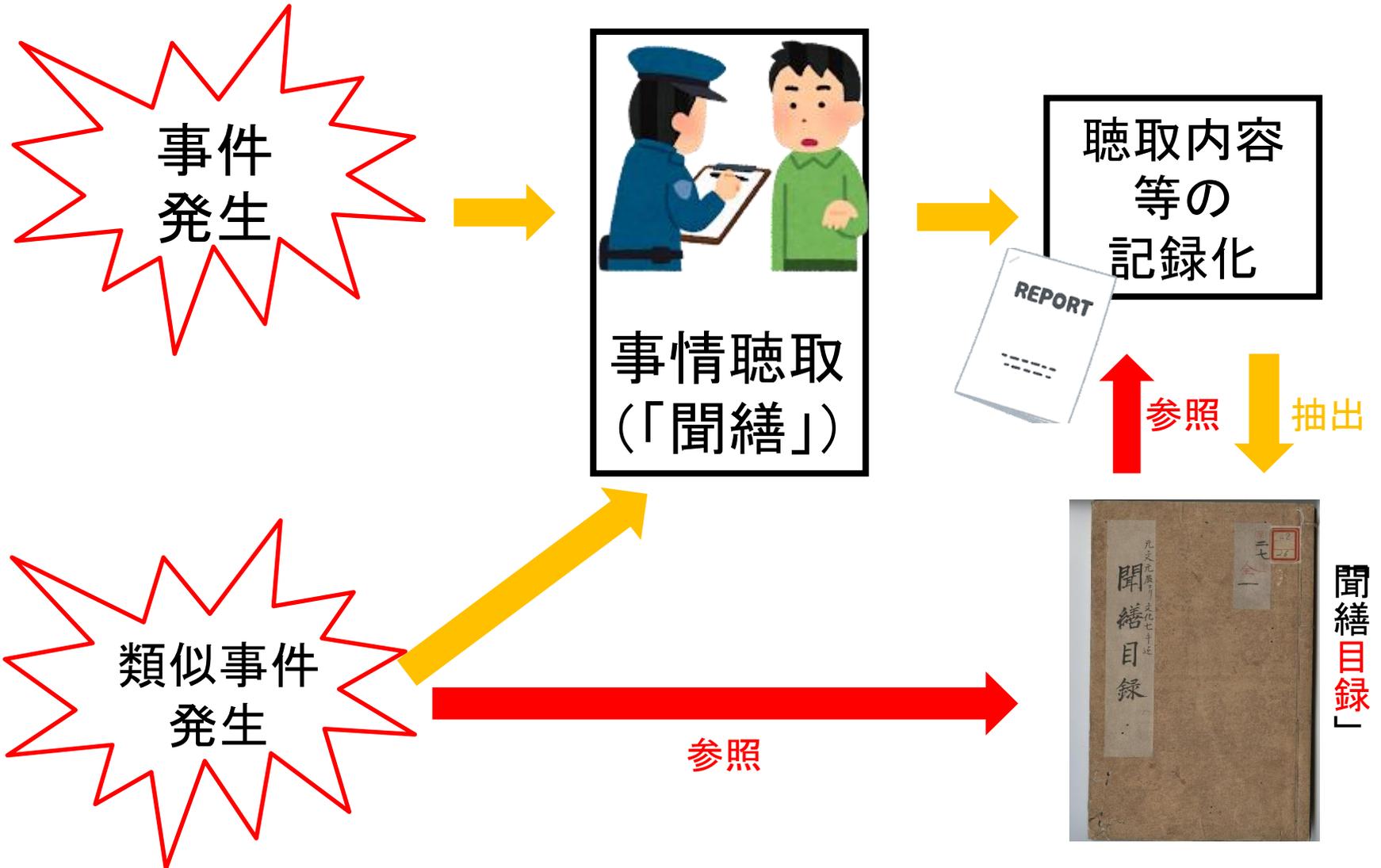


# 「聞繕目録」について

## 資料の性格を「おおまかに」おさえましょう

- 1つの記事に入っているのは、人名と案件。多くの場合、文末は「聞繕之事」(=聞繕(事情聴取)を行った)
- 城下や家中で何が問題となったのかがわかる、いわば「福井の事件目録」
- 目録なので記述がかなりパターン化されている(〇〇が△△したので聞き繕った(事情聴取した))。
- 5W1Hに注意)

# 「聞繕目録」について



# 「聞繕目録」における「5W」

- いつ(When) 同〇月、〇〇之節...
- どこで(Where) △△ニ而、於△△...
- 誰が(Who) □□儀、  
□□(家来、倅、下代など)▽▽  
□□共...
- 何を(What)なぜ?(Why) ◆◆ニ付、◆◆故...

文の構造やこれらの表現に慣れるのが読解の近道

# 本日のテーマ(目標)

松平文庫「聞繕目録」(A0143-01134)を読んで・・・

①江戸時代の古文書の言い回しや表現に慣れる

②読解の推測力を鍛える(見出し、前後の文字から)

くずし字(翻刻文でもOK)はなるべく多く読むと、読解力養成につながります

# では、読んでいきましょう。

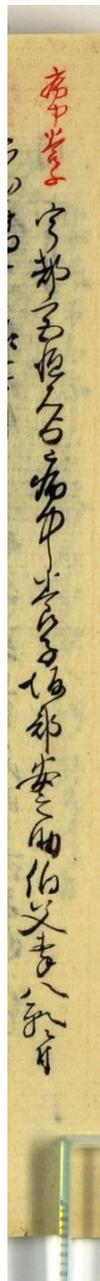
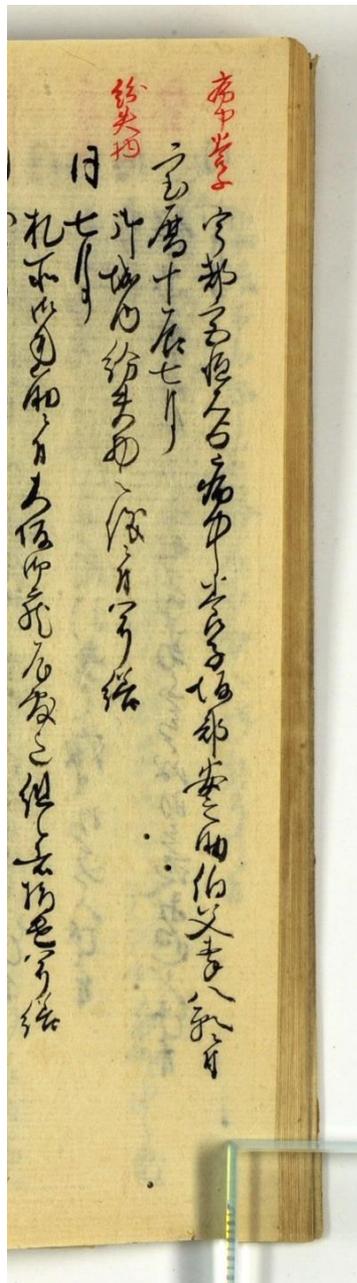
各ページの「部分」を読んでいきます（全部は読みません）。

読めないところの文字の形は、何となく覚えていけばいいです。

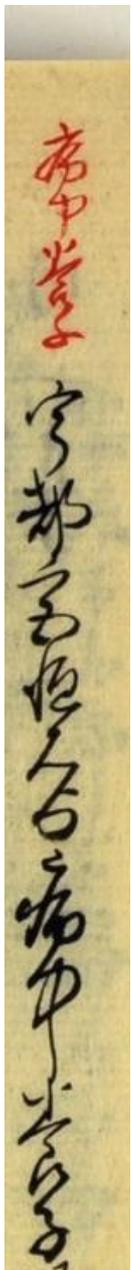
あまり読めない方は、古文書独特の表現や言い回しを学ぶつもりで結構です。

★は「課題」や「読解のポイント」です。



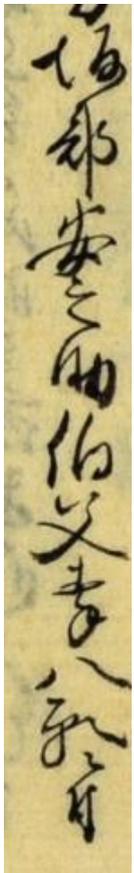


★右の文章を読んでみましょう。最後の2文字が頻出です。

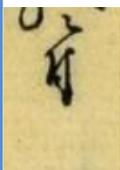


病中養子

宇都宮恒○○○病中養子



坂部安之助伯父幸八願○○



二付



病中養子とは？

跡継ぎのない武士が家の存続のために病中に願い出る養子のこと。江戸時代初期は認められず、1651年の慶安の変以降緩和された。

なお、宇都宮家の当主はこの年の8月茂左衛門に代わっており恒右衛門はこのころ死去したようである。

宝曆十辰七リ  
 紛失物 御城内紛失物之儀  
 日七リ  
 札下少御前方人任仰流石敷之儀  
 日七リ  
 御料下少御前所人任仰流石敷之儀

宝曆十辰七リ  
 紛失物 御城内紛失物之儀  
 日七リ

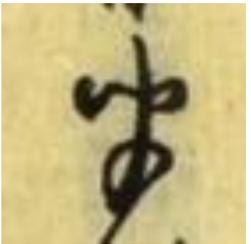
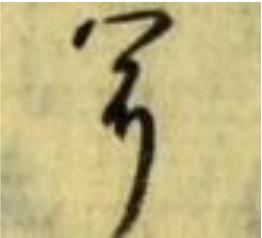
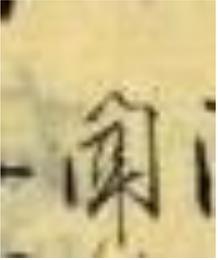
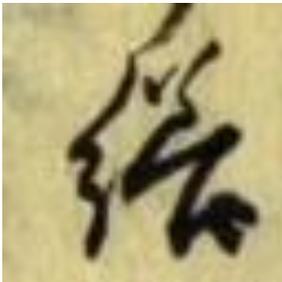
宝曆十辰

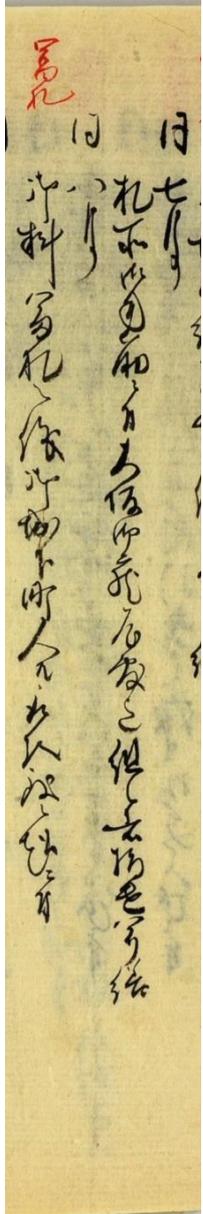
紛失物

御城内紛失物〇〇〇〇間繕

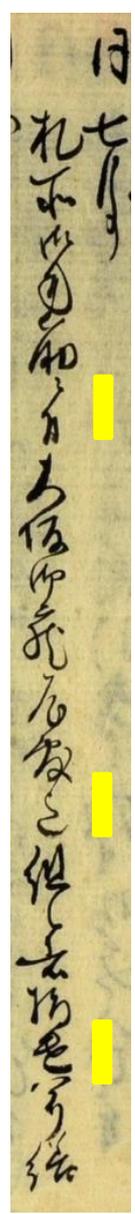
之儀二付

糸へんと門がまえ





★「文章」をいくつかのパーツに分けて読みましょう。



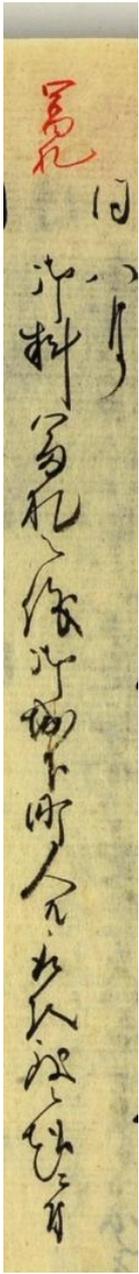
同 七月

札所御用筋〇〇、大坂御蔵屋敷〇組之者指〇聞繕

二付

迄

遣



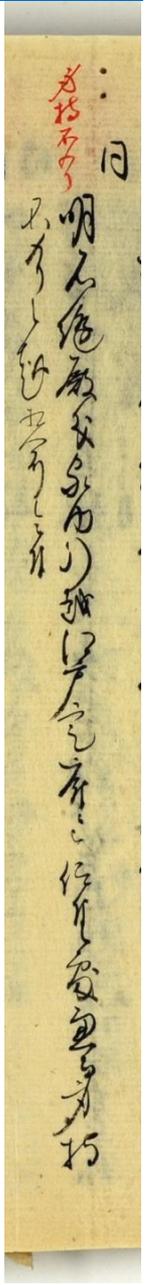
同 八月

富札 御料富札〇〇、御城下町人〇取次致〇〇二付

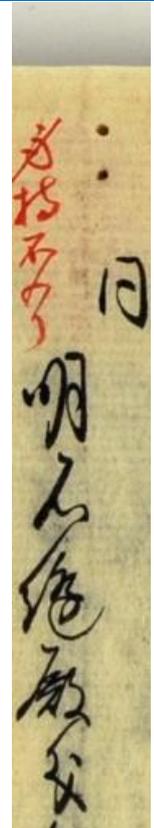
候趣

「御料」…幕府領

「富札」…富くじのこと。江戸時代は寺社再建の費用を捻出する場合などに限り認められた。



★「文章」をいくつかのパーツに分けて読みましょう。



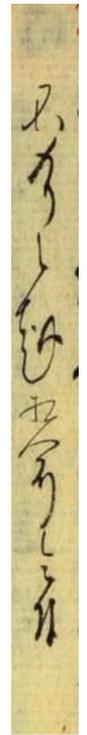
同

身持不~~レ~~リ 明石縫殿義



家内引越江戸定府二〇〇〇〇〇〇処(處)、

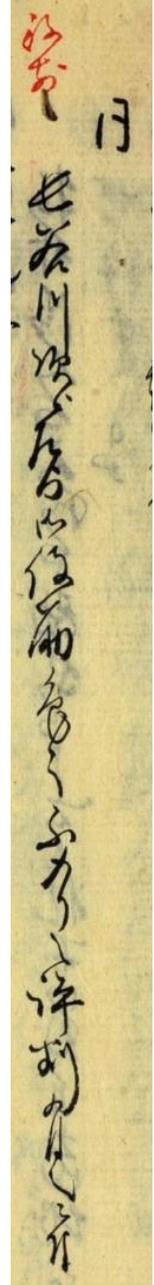
被仰付候(仰せ付られ候)



兼〇身持 不~~レ~~リ〇〇相聞候二付

兼而

之趣



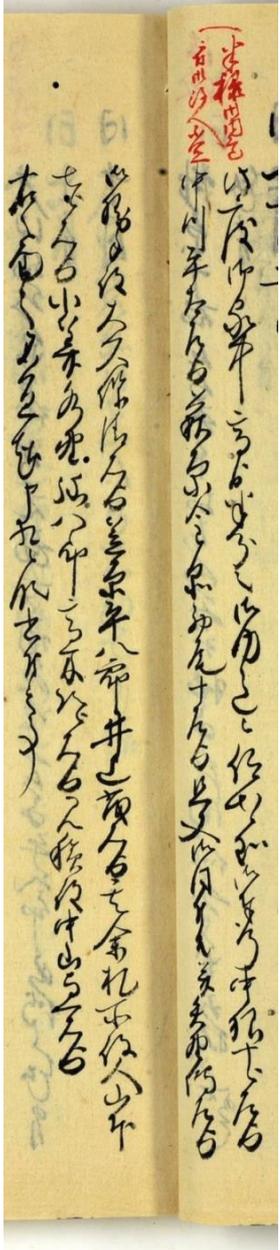
同

役前 長谷川〇〇〇〇〇〇御役筋〇〇不~~レ~~リ之

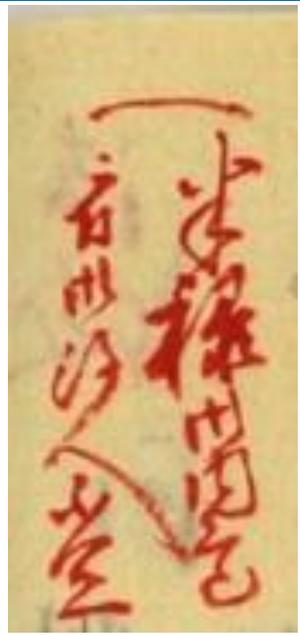
〇〇〇〇二付

色々

評判有之



★まず朱筆の「見出し」から読みましょう。



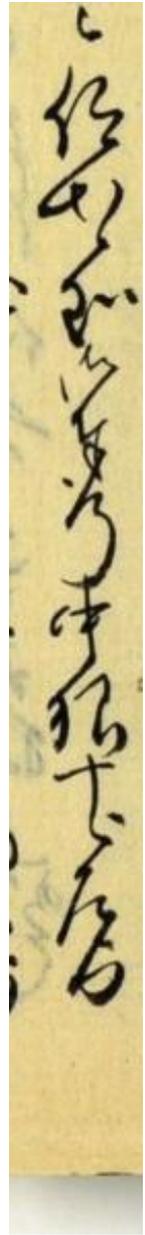
★「見出し」の内容は本文にも出てきます。



此度御○○高方○○之御内意

家中

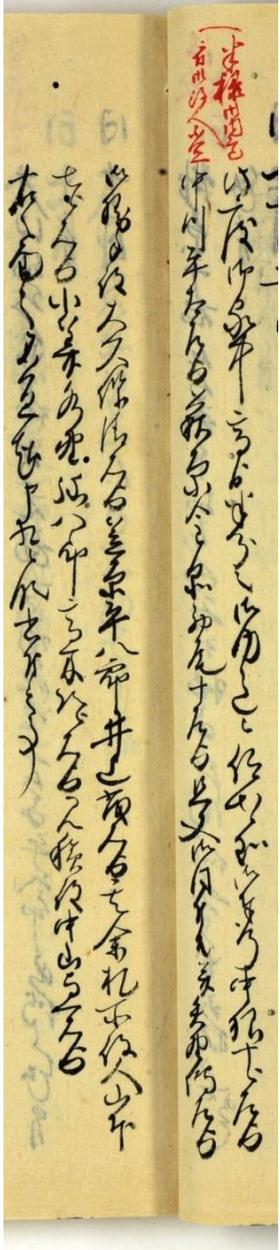
半分



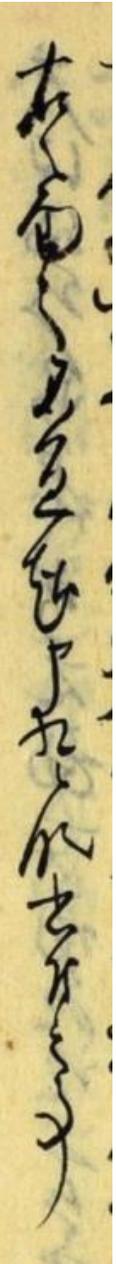
○○○候処御奉行中根十郎左衛門……

被仰出

(二)のあとは「職名」+「人名」が続きます)



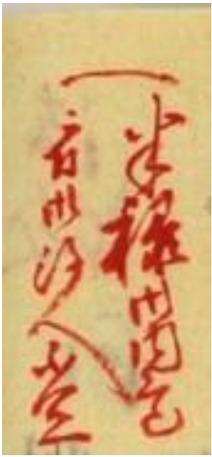
★最後の文を読んでみると意味が分かります。



右之〇〇不<sup>レ</sup>宜 〇申相〇段 書付之〇  
面々 趣 候 事

右の人びとは良くないことを申しあっていたので書き付けた。

★「見出し」を見直してみましよう。



半禄とは？

藩主から藩士に与える家禄を半分にする事。例えば百石取りの藩士なら50石分が支給され、50石を藩が藩が借り上げる形となる(借米)。借米は元禄7(1694)年に1割の割合で行われたが、5割の借米が初めて行われたのがこの宝暦11年(1761)であった。この年の藩士たちの衝撃と動揺は大きかったものと思像される。その後幕末まで10回ほど半禄が行われた。

同 日  
 此の人の所下止宿の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 る多し。此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 わり。  
 此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや

同 日  
 此の人の所下止宿の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 る多し。此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 わり。  
 此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや

★現代語訳をみて右の文を読んでみましょう。

同 日  
 此の人の所下止宿の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 る多し。此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 わり。  
 此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや

同四月 役前（幕府の）巡見衆が城下に宿泊したさいに、

此の人の所下止宿の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 る多し。此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 わり。  
 此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや

御先物頭たち3人が火の元廻りを命じられたところ、

此の人の所下止宿の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 る多し。此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 わり。  
 此の御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや  
 御先物頭之の火之也。仔細しや

よろしからざる様子を聞いたので（聞繕した）。



御年御事御成程

日 十一月己九月

宗徳御前 三山行方書前次打海士件

日 三山行方書前次打海士件

竹傳御共文者御事書取執七不事却申候事立為一紙

他宗徳御前 御事書取執七不事却申候事立為一紙

日 加藤老入右衛門尉宗徳御事書取執七不事却申候事立為一紙

日 加藤老入右衛門尉宗徳御事書取執七不事却申候事立為一紙

日 大田河原宗徳御事書取執七不事却申候事立為一紙

日 十月

大田河原宗徳御事書取執七不事却申候事立為一紙

日 十月

世宗徳御前 今在比叡園在修一節宗徳

日 十一月 世宗徳御前 今在比叡園在修一節宗徳

日 十二月 世宗徳御前 今在比叡園在修一節宗徳

日 十二月 世宗徳御前 今在比叡園在修一節宗徳

日 十二月 世宗徳御前 今在比叡園在修一節宗徳

世宗徳御前 今在比叡園在修一節宗徳

日 十二月

川原 世宗徳御前 今在比叡園在修一節宗徳



日十月  
 今在比奈河を修一申す候  
 甚利在右為子固修一の湯合し仰す  
 日十二月  
 正のてん右為子方より法と仰す  
 日十二月  
 修一の湯合し仰す  
 今在比奈河を修一申す候

★見出しがわからないときは、本文をみて参考にしましょう。

日十月  
 今在比奈河を修一申す候

甚利在右為子

御○○○○不○

甚利在右為子固修一の湯合し仰す

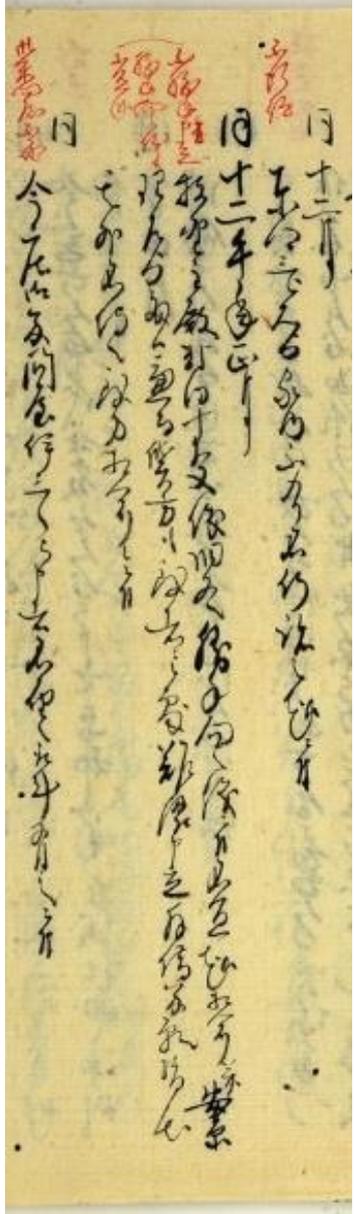
同

○○○○○勝手○○二付、渴○之○二付、

(人名、17石3人扶持)

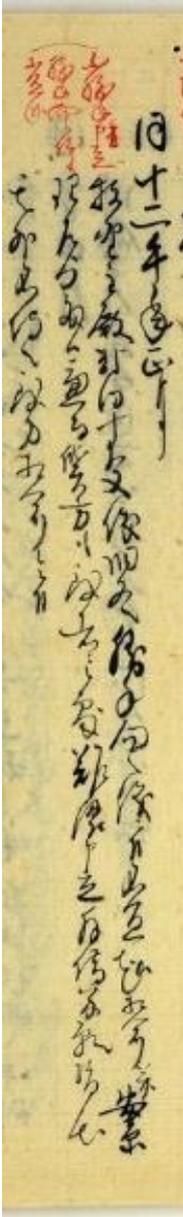
(飢えて危険な状態)



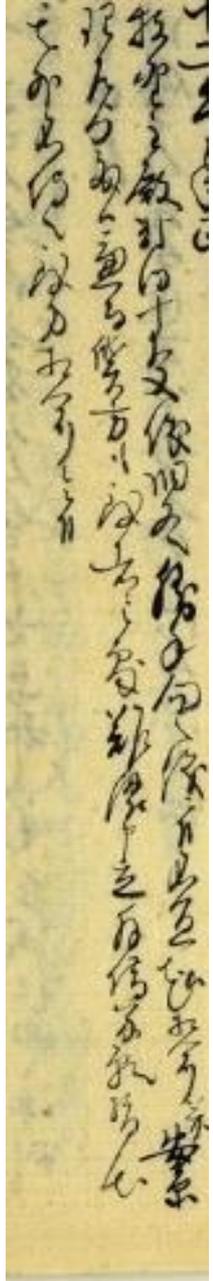


○行跡 東郷（ 家内（ 不行跡之（ 二付、

★少し長いですが、意味を取りながら読みましょう。



不勝手申立  
勝手向之儀二付  
不宜趣



牧野主殿・村田十大夫儀、旧冬勝手向之儀二付不宜趣相聞、并安原  
理左衛門義八兼而質方も致者二候処、難渋申立拝借米願指出、  
其外不埒之致方相聞候二付、  
（\*赤字は既習の文字）

# いかがでしたか？

- ①資料の性格を意識して読みましたか？
- ②古文書独特の言い回しや表現に慣れましたか？
- ③推測力を働かせながらくずし字を読みましたか？

## おわりにー読解上達のためにー

特徴的な崩し字をいくつか覚えておく。

分からない文字があっても、前後をみて意味を推測する。

翻刻文を読み、用語に慣れる(確実に読解力が向上)。

楽しみながらを読む(これも確実に読解力が向上)。